科目名	ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
小児看護援助論Ⅰ		必修	2	2	後期

担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー
東福寺愛実　山本富士子　他	2410 2411	Narumi.tofukuji Fujiko.yamamoto	金　12：10～13：00 金　12：10～13：00

授業の目的・概要	健康な子どもの発達過程を基盤として、病気や診療・入院が子どもとその家族に及ぼす影響および子どもとその家族に応じた療養行動やセルフケア能力を促進する看護について理解する。病気に伴う治療・検査・処置を受ける子どもや家族の心情を知り、子どもの日常生活の援助ならびに必要な看護支援について理解する。また、健康問題を持つ子どもとその家族への具体的な援助方法および小児期に特徴的な症状や小児特有の援助技術について講義・演習を通して理解する。さらに特別な状況にある子どもと家族への看護、各期の子どもと家族への看護について理解する。
授業形式・方法	☑対面授業　☑講義　☑演習　☑PBL　□反転授業　□ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ □遠隔授業(双方向型)　□実習　□実技　☑ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　□ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ　□実習・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ □遠隔授業(自主学習)　□その他　（　　）
学習上の助言	この授業では、小児看護学概論で学んだ子どもの成長発達上の特徴や小児看護の基本となる理念等の知識が必要となるため、小児看護学概論で学んだ内容を復習しておくことが望ましい。また、授業で学んだ内容を必ず復習することを習慣にして欲しい。
教科書	・系統看護学講座 小児看護学１ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2023 ・系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2023
参考書	・ナーシンググラフィカ 小児看護学１ 小児の発達と看護 /著:中野綾美 /メディカ出版 /2023 ・ナーシンググラフィカ 小児看護学２ 小児看護技術 /著:中野綾美 /メディカ出版 /2023 ・根拠と事故防止からみた小児看護技術（第３版） /著:浅野みどり /医学書院 /2021 ・発達段階からみた小児看護過程（第３版） /著:浅野みどり /医学書院 /2021 ・写真でわかる 小児看護技術（第3版） /著:山元 恵子 /インターメディカ /2022
外部教材	公益社団法人 日本看護協会　動画ポータル

	学生が達成すべき行動目標	関連卒業認定・学位授与方針
①	健康状態、発達段階に合わせた日常生活援助技術が理解できる。	NS(1)(3)
②	健康状態を判断するアセスメント技術について小児の特徴をふまえた説明ができる。	NS(3)(4)
③	急性期・周手術期にある子どもと家族への看護について説明できる。	NS(3)(4)
④	慢性期・終末期にある子どもと家族への看護について説明できる。	NS(2)(3)
⑤	障害のある子どもと家族への看護について説明できる。	NS(2)(3)(4)
⑥	子どもにとって安全・安楽な環境を整え、子どもが安心して治療やケアを受けるための技術が理解できる。	NS(5)

授　業　計　画

回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）	
1・2	・オリエンテーション ・病気に対する子どもの理解の特徴 ・病気や診療・入院に伴うストレスと影響要因	講義	小児看護概論で学んだ子どもの発達の過程（認知機能）について予習・講義内容を復習する。	2
3・4	・病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護 ・子どもへの説明と同意　インフォームドアセント ・子どもの病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護	講義	学習した講義内容を復習する。	2
5・6	・症状を示す子どもの看護 ・痛みを表現している子どもと家族への看護 　子どもの痛みの受け止め方、表現方法、客観的評価	講義	学習した講義内容を復習する。	2
7・8	・活動制限が必要な子どもと家族への看護 （発育性股関節形成不全） ・感染症と予防 （麻疹・風疹・水痘・耳下腺炎・ロタウイルス感染症）	講義	左記疾患、感染症について予習、講義内容を復習する	3
9・10	・外来における子どもと家族への看護 （気管支喘息、クループ症候群） ・感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護	講義	左記疾患について予習、講義内容を復習する。	2
11～14	・小児特有の診察(検査、処置)に伴う技術と看護 ・演習 バイタルサイン測定、 身体計測（身長・体重・頭囲）、採尿	講義・演習	小児の看護技術について予習し講義・演習に臨むこと。終了後は講義・演習内容を復習する	3
15・16	・虐待を受けている子どもと家族への看護 ・災害を受けた子どもと家族への看護	講義	教科書の該当部分を予習し、講義内容を復習する。	2
17・18	・急性症状のある子どもと家族への看護 （急性気管支炎・肺炎　肥厚性幽門狭窄症、川崎病、腸重積症）	講義	左記疾患について予習、講義内容を復習する。	3

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

19・20	・周手術期における子どもと家族への看護 （先天性心疾患〔ファロー四徴症、心房中隔欠損〕、口唇口蓋裂　外鼠径ヘルニア　胆道閉鎖症）	講義	左記疾患について予習、講義内容を復習する。	2
21・22	・出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護 （低出生体重児、ヒルシュスプルング病、鎖肛） ・先天性疾患をもつ子どもと家族への看護 （ダウン症候群）	講義	左記疾患について予習、講義内容を復習する。	2
23・24	・医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護 （二分脊椎、腹膜透析） ・慢性的な経過をとる疾患をもつ子どもと家族への看護 （ネフローゼ症候群、溶連菌感染症後急性糸球体腎炎、Ⅰ型糖尿病）	講義	左記疾患について予習、講義内容を復習する。	2
25・26	・心身障害のある子どもと家族への看護 （脳性まひ） ・子どもの死の理解と看護 （急性リンパ性白血病） ・子どもと家族への緩和ケア	講義・GW	左記疾患について予習、講義内容を復習する。	2
27・28	・救急救命処置が必要な子どもと家族への看護 （頭部外傷、熱中症、ショック、意識障害、転倒・転落） ・事故防止と安全教育	講義	左記疾患について予習、講義内容を復習する。	2
29・30	まとめ	講義	1～28 回の授業内容を復習する。	3
試	定期試験：達成度評価、評価のポイント参照			

達成度評価

総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
		80	15	0	0	5	100
総合力指標	知識・技術力	60	5	0	0	0	65
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	5	0	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	0	5	0	0	0	5

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	✓	小児の看護援助の実際について、キーワードを駆使し、説明・記述ができる。知識 60%、思考・推論・創造する力 20%とする。定期試験期間に試験を実施する。	テスト終了後に、定期試験で正答率の低い問題や今後の学習ポイントについて書面で解説を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
演習およびレポート	①	✓	小児の看護援助技術の演習を通し、小児看護に必要な技術やコミュニケーション方法について説明・記述ができる。また記述することで、自身の課題を明確にすることができる。知識・技術力を 5%、コミュニケーション力を 5%、問題を発見・解決する力を 5%とする。	添削後、定期試験前の授業時に返却する。
	②	✓		
	③			
	④			
	⑤			
	⑥	✓		
その他	①	✓	全体を通して、取り組みの姿勢・意欲を 5%とする。	授業や演習中の取り組み姿勢について注意が必要な場合は、学生自身が気づけるように声掛けをおこなう。
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥	✓		

備　考

他担当教員	外部講師
教員の実務経験	担当する看護教員は、看護師として実務経験が５年以上有したものが担当する。
実践的授業の内容	小児の看護援助に必要な基本的知識および小児特有な看護技術について演習を通して理解する。学生個々が実践することで、気づきや学びが深まることが期待される。実際の小児看護の現場で必要な看護実践の知識・技術の修得を目指し、小児看護援助論Ⅱおよび小児看護学実習につなげる。
その他	・学習状況により、学習内容や順番が変更になる場合がある場合は講義内で説明をする。 ・今後の COVID-19 の感染状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。